

75年目の編集長の日常¹静岡大学理学部
森田 健

いつものように研究室で仕事をしていると、院生のX君がふと訪ねてきた。

(X君)「森田さん. この間知ったんですけど, 森田さんって『素粒子論研究』の編集長してたんですね。」

(森田)「そうだよ。」

(X君)「『素粒子論研究』は講義録や修論のページをよく使っていたんですが, 森田さんが編集長なんて知りませんでしたよ. ちなみに給料良いんですか?」

(森田)「ぶしつけなこと聞くねえ. この仕事はボランティアで, 給料はないんだ。」

(X君)「そうなんですか. でも編集長って肩書き, すごそうですね. どうやってなったんですか?」

(森田)「選挙で, 選ばれたんだよ. 得票率は90%を越えてたかな。」

(X君)「どこかの独裁国家の選挙の得票率みたいですね!? 買収でもしたんですか?」

(森田)「立候補が1人の信任投票だったからね....」

(X君)「やっぱり給料ないし, 誰もしたがるらないんですかね? で, どんな仕事してるんですか?」

(森田)「送られてきた記事をチェックして, 『素粒子論研究』のホームページで公開しているんだ. チェックと言っても, 査読ではなくて, 公開しても問題ないかを確認する程度の簡単なものだけだね. あっ, ただ最近ちょっと気をつけているのは写真やイラストに関してかな。」

(X君)「写真ですか?」

(森田)「そう. 最近はスマホで簡単に写真が撮れるし, 研究会の報告なんかで写真を載せる記事が増えてきてね. 昔は『素粒子論研究』は冊子として出版されていたから, ここまで写真は多くなかったけど, 10年前くらいに『電子版』に移行して, 記事は全部Webで公開することになったんだ. そうすると冊子とちがってページの制限もなくなり, 写真を多く載せられるようになってね. だけど写真をWebで公開するのって, 著作権の問題で簡単じゃないんだ. 例えば, 誰かに自分のカメラで, 自分の写真をとってもらったとするだろ. そしたら, その写真に写っているのは自分でも, 著作権は, 撮影した人がもつんだ. すると, その写真を勝手にWebで公開するのは, 撮影した人の著作権を侵害することになるんだよ。」

(X君)「へー, そうなんですか. 自分のカメラなのにややこしいですね。」

(森田)「そうだね. だから, 写真を載せる記事には, 著者の人に, できるだけ写真の撮影者や撮影日を明記してもらっているんだ. そうしたら写真の著作権者が誰かわかりやすくなるし, 公開しても問題ない写真だってはっきりするだろ. 正直なところ, 私も写真を載せるのにそういう注意が必要だなんて, 編集委員になるまで知らなかったよ. だから, 投稿される記事でも, 記載漏れがないか, チェックしているんだ。」

(X君)「写真を載せるのって非自明なんですね。」

(森田)「ちなみにもっとややこしいのは著作物なんかの写真で, 例えば, 「マスコットの写真」とか「銅像の写真」とか, 「写真」の写真とかで, これらは著作権が二重に発生する場合があったりなかったりで, さらにマスコットだと商標権もからみ...」

(X君)「なんだか, あたまが痛くなってきそうなので, 写真の話はもう良いですよ!」

(森田)「そうだな. 気になったら検索してみてください. 私も検索しないとよくわからないしな。」

¹学生とのやり取りの記述は架空のものです. またこの記事は執筆時(2023年1月)の情報を元としています.

(X君)「ところで、『素粒子論研究』の編集委員って、何人くらいいるんですか?」

(森田)「今は私の他に6人いるよ。『素粒子論研究』が冊子版のときは、基研の所員が1人で編集長をしていたんだけど、電子版になってから、Webの管理や記事の公開とかを、全部やる必要がでてきたんだ。そこで前任の橋本編集長が、編集委員を増やして、うまく分担する体制を作ったんだよ。私もそのとき編集委員に誘われたんだ。さらに学生さん2人にバイトとして手伝ってもらっているから、そこまで編集委員の負担がなく運営できているよ。そうそう、橋本さんは今でも編集委員のメンバーで、とてもお世話になっているよ。」

(X君)「そうなんですかね。橋本さんの他にはどんな人が編集委員にいるんですか?」

(森田)「まずは小沼さん。小沼さんもかつての『素粒子論研究』の編集長で、学会などのいろいろな活動にも長年携わってこられたんだ。電子版・編集委員会の立ち上げのときにも、尽力されてね。そのため豊富な経験や知識をお持ちで、困ったときによく助けてもらっているよ。いつもの確かなアドバイスをしてくれるんだ。次に濱中さん。濱中さんは『インシュタイン牧場』というWebサイトを運営していて、そこで修論や博士論文を集めて公開しているんだ。私が院生のときから、そのサイトにはお世話になったな。実は『素粒子論研究』の修士論文や博士論文の記事は、そこからうつしたのものも、かなりあるんだ。」

(X君)「『素粒子論研究』の修士・博士論文のページがあるのは、濱中さんの寄与も大きかったんですね。」

(森田)「そうだよ。あと酒谷さん。酒谷さんもすごい人で、最近公開した新しい『素粒子論研究』のWebサイトはほとんど酒谷さんが作ったんだ。」

(X君)「えー、そうなんですか!? あのページ、検索機能とかかなり本格的ですよ。スマホからも見やすいです。てっきり業者が関わっているのかと思いましたよ。」

(森田)「私もソースを見ても、どういう仕組みで動いているのか、さっぱり分からないな。」

(X君)「すごいですねー。というか、森田さんの他の編集委員、森田さんよりすごい人ばかりなのに、なんで森田さんが編集長なんですか?」

(森田)「そこは、自分でも気にしているんだが... まあ、世の中にはそういうこともあるんだ... あとは核理論委員会と素粒子論委員会から中田さんと横山大輔さんに編集委員として加わってもらっているよ。この2人以外の編集委員のメンバーは、編集長が自由に選んでお願いしているんだ。でも『素粒子論研究』は素粒子論グループの公式な雑誌だから、「この編集部は素粒子論グループの公式な活動ですよ」とお墨付きを与えるために、核理論委員会と素粒子論委員会から編集委員に入ってもらっているんだ。」

(X君)「へー、いろいろあるんですね。」

(森田)「特に今年は『素粒子論研究』の75周年と言うことで、特別企画の仕事が多く、中田さんと横山さんにも大変助けてもらっているよ。」

(X君)「そうなんですか。いやあ、『素粒子論研究』っていろんな人が関わっていたんですね。」

(森田)「そうだね、他の編集委員の皆さんには、とても感謝しているよ。でも『素粒子論研究』を本当に支えているのは、投稿してくれる著者の皆さんだからね。X君もぜひ修論でも投稿してほしい。」

あとがき

『素粒子論研究』75周年ということで、25周年記念の歴代編集長の手記を読み直したところ、時代の流れと共に素研や編集長の仕事も大きく変わったものだと、感慨深く感じました。そこで、現在の素研や編集委員の雰囲気を経験した気持で伝えようと対話形式の記事にしました。また、素研の編集長が、率先して気軽な記事を書くことで、投稿をよりしやすい雰囲気にしたという思いもありました。